

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000043		
法人名	医療法人寿光会		
事業所名	グループホーム上豊田		
所在地	愛知県豊田市若草町1-7-21		
自己評価作成日	平成29年8月16日	評価結果市町村受理日	平成29年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成29年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム上豊田の理念でもある「虹色カラー」を大切に、入居者様1人1人のニーズにあう支援を心がけ、日常生活が安定しおくれる支援に取り組んでいます。又、職員が得意分野を活かし、入居者様と接し信頼関係も日々向上しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の生活が業務本位ではなく利用者一人ひとりのペースで進められ「人の幸せや個性は十人十色。様々な色を織りなすひとつの虹を描いています。」という理念に沿い個人の人間性を尊重したケアを目標に掲げている。各職員の得意分野の支援に寄り添って利用者が出ているおはり、習字、詩吟、製作等の現存能力が日々活かされ、この状態が少しでも長く続けられるような支援に努めている。訪問した当日も利用者の作品が見事に飾られていた。中庭は利用者が気軽に外気に触れられるように整備されている。今年開設10年を迎えまだまだ課題はたくさんあるけど、生き生きとしている職員の意欲的な姿勢がホームの更なる広がりへと期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である<虹色カラー>を職員全員共有し、個別支援を実施している	「人の幸せや個性は十人十色。様々な色を織りなすひとつの虹を描いていきます。」というホームの理念を職員はそれぞれに理解し、申し送り時に情報を共有し話し合っ、様々な方法で利用者の個性が活かせるような支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様と散歩や外出に積極的に出かけ、挨拶を心がけ交流機会を増やしている。又、近所の方の依頼で施設駐車場利用も開放している	散歩の際は近隣住民と挨拶を交わしたり、ホームの駐車場を開放し、近隣の人達に利用して貰っている。又町内会に加入し、回覧板が回り町内会の敬老会やお祭りの誘いを受けている。	地域への呼び掛けを行い、地域住民との輪が広がることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩などの外出の際、挨拶、会話をこちらからし、身近に感じていただくようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様にも参加していただき、質問、要望もお聞きしサービス向上に活かしている	運営推進会議は二カ月毎に実施され、ホームの活動報告を行い意見交換されている。家族の立場からの色々な意見も得られ、ホームのサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の説明会等には、必ず参加している	市の高齢福祉課へは必要に応じて出向いたり、電話やメールで連絡とって協力関係が築かれている。管理者は市の「支えあいネットワーク」に参加したり、市の介護サービス事業者講習会に出席し、情報の収集や交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為は、職員周知しており、拘束をせず安全に暮らせる支援に努めている	安全の為玄関は施錠されている。勉強会は実施されていないが、日々の申し送り時に話し合っ確認し意識の向上を図っている。帰宅願望の人には後方からの見守りや散歩同行で行動を阻止しない介護に努めている。	身体拘束のマニュアルの作成と内部研修の充実を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならない行為であり、職員周知しており、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度の必要時は、関係者と検討し支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず、読み合わせを行い、充分理解を得たうえで同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している 又、運営推進委員会にて要望、意見に耳を傾け支援に反映している	意見箱が設置されているが利用されてなく、家族からの意見要望、苦情は面会時に聞きだし、申し送りノートに記入し職員全員で共有され、速やかな対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回職員会議を行い、支援向上に反映させている	職員の意見は言い易い雰囲気、日々の支援の中で入浴剤使用許可等簡単な要望には管理者が早急に応えている。職員の定着度も良く職員の働く意欲がホームの運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自発的に取り組む姿勢に評価ポイントに最もおき、向上心を持ち従事できる環境、条件作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修には、積極的に受講していたき、受講後、現場に発信活用している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所に勤務し、支援向上の機会作りに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人様、ご家族様と面談を行い、情報収集、質問要望に耳を傾け信頼関係作りのきっかけにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様とご家族様との要望が違うこともあり、双方の要望をお聞きし、信頼関係を築いていくようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方の要望を充分お聞きし、(例)リハビリ導入など柔軟な対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様と食事は共にし、楽しい時間を共に過ごすことを実践している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は日常生活のご報告をし、必要時は、本人様の要望もお伝えしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会、ハガキ、手紙でのやりとりの支援も実施している	家族や友人の訪問は継続的にあり、家族の協力を得て墓参りや法事、正月に泊りがけで自宅に帰る人もいる。又はがきや手紙を書いたり、電話の取り次ぎも行い馴染みの関係が途切れないように支援している。ホームに入居してからは近くの喫茶店も馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように職員が把握し入居者様同士の交流も日々支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談、支援体制は構築している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活から、希望に可能な限り添える支援をするようにしている	虹色カラーの理念のもと、一人ひとりに真摯に、あるいは根気よく語りかけることで、会話や反応から思いや意向を汲み取り、例えば辛いものが苦手であるといったことを知り、申し送り帳などで職員間で共有し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、日常会話、ご家族様からの情報も含め支援に活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りにて、ご本人の現状把握を職員がしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の意見を尊重し、介護計画を作成している	ケアマネを中心に担当者が利用者の意見などを取り入れながら介護計画を見直している。変化がなければ二ヶ月ごとに、変化があれば都度見直しを行い、家族の了解を得て作成支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報共有はできている為、見直し計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が生きがいを感じ、人間らしく暮らしていただく支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の意向を伺い、協力も得て受診支援も行っている、又 施設入居者主治医を訪問診療している	もともとのかかりつけ医を利用することもでき、現在家族の協力でかかっている人もいるが、ほとんどの人は協力医を受診している。皮膚科、歯科は提携医を職員の支援で受診している。24時間の電話相談も可能で、週に一度訪問看護もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師に、相談報告し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入、退院時には、双方情報交換をしている、又退院患者様の入居相談も受けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針を定め、医療連携体制を整えている	利用者、家族の要望があり、医療行為を必要とせずゆるやかな終末期を過ごすことも可能であるが、医師の判断で医療行為やリハビリが必要となれば法人グループ内の老健などへ転居することが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習を定期的に行い実践能力をつけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼、夜間想定避難訓練を行っている	年に二度、うち一度は消防署員の立会いのもとで夜間想定避難訓練を行っている。平屋なので避難集合場所である駐車場まで利用者を送り出している。一週間分の備蓄があり、賞味期限などを確認しながら備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、必ず～さんでお呼びしている	職員と利用者が馴れ合いの関係にならないよう、けじめある呼びかけを心がけており、居室へ入室する際は必ず声かけやノックを行っている。浴室やトイレのドアは必ず閉め、失禁などの際にはそっと声をかけ自室へ誘導するなどプライバシーへの配慮もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	喫茶外出時、何が食べたいか、洋服は何が着たいか等、本人様に決定していただく機会を多く作るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制はせず、入居者様職員で一日楽しく過ごせる環境作り支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、髭剃り、整髪をしていただいている、又季節に沿う格好のアドバイスをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な入居者様には、配膳等一緒に行っている	献立とともに食材が届けられ、それを職員が調理して提供しているが、苦手なものや、味付けなどは献立を変えるなどして対応している。寿司やうどんなどの外食や、喫茶、またみんなで作るおやつレクなども楽しんでいる。配膳や洗物などできることをやってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に記入し、毎日の個々の状態把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは実施しており、不可能な方、不十分な方には、介助をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、トイレ誘導をしている	生活歴をもとに声掛け誘導し、それを排泄チェック表につけ職員間で共有支援している。自立を目指すことは基本姿勢であるが、無理強いせず、利用者の気持ちも尊重している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給には注意しており、便秘の方は、下剤も使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでいただけるように、時間は決めずゆったり入っていただいている	基本は週に二回の入浴であるが、入浴剤を使用したり、拒否のある人へは声掛けや職員の変更、入浴日の変更などでできる限り気持ちよく入れるようにしている。体調や状態にも応じて、入浴、足浴、清拭などで清潔を保てるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、居室気温も考慮し、安眠できる環境にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに管理し、副作用など重要事項は申し送りし、職員が周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌唱、詩吟、裁縫、塗り絵、パズル等、生活歴、趣味に応じたことをしていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩、喫茶外出、花見など行っている	気候、気分、体調などを考慮したうえで散歩にできるだけかけるようにしている。帰宅願望が強く外にでたがる利用者へは職員が共に散歩に出て落ち着いてもらえるよう支援している。誕生日などに個別で外食にでかけることもある。花見には日をわけてではあるが全員でかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理希望入居者様は、所持されており外出時お支払いされている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者のみ実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月カレンダー作成をしていただいている 又中庭に野菜、花を植えており、入居者様に水やりをしていただいている	製作担当の職員が先頭にたつて、貼り絵や塗り絵のカレンダーを毎月作り居間に張っている。それだけではなくほかに多くの絵や習字、日常や行事のときの利用者の写真なども飾られており、訪問した時にも来月のカレンダー作りを楽しそうにしている利用者の姿が見られた。ユニットをはさむ中庭には花や野菜の鉢が置かれ、利用者が水遣りを手伝ったり肥料のタイミングを職員に教えたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にもソファを置き、入居者様同士で話し過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅でも使用されていた机、椅子、又アルバム等あり居心地のよい空間にはしている	十分な収納家具が用意されているので、使い慣れた持込家具は少なめではあるが、位牌や遺影、家族写真、自分の作品などが置かれた部屋のドアには表札やちょっとした壁飾りも貼られ、それぞれの部屋らしさが出ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干し、たたみ、食事準備、草取りなど家と変わらない生活を送っていただく支援をしている		

目標達成計画

作成日：平成 29年 8月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	64	平成27年度目標達成計画にも掲げましたが、地域の人が気軽に尋ねるには、至っていない	施設という偏見をなくしていただき、訪問者増加に繋げていく	日々の生活で入居者様と散歩、外出に出かけこちらから、積極的に会話をし、施設でのイベント、お茶会をお知らせし、来訪のきっかけにする	12ヶ月
2	68	ご家族様の面会が、皆無に等しい方もみえる為、サービスに満足されているかどうか不明	18名の入居者様が、満足されるサービスをめざす	今回の外部評価アンケートを最大限活用し、要望、不満を取り上げ、職員間で話し合い改善する	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。